

温州ミカンの浮皮軽減技術

生産 品目：温州ミカン

技術の概要

近年の地球温暖化の進行により浮皮の多発が問題になっている。浮皮とは果皮と果肉が著しく分離した状態のことで、この症状になると食味や貯蔵性が低下するなどの問題が発生する。

浮皮軽減技術として、植物生長調節剤を利用する方法があり、その一つがジベレリン(GA)とプロヒドロジャスモン(PDJ)の混合液である。従来は貯蔵ミカンや樹上完熟栽培でのみ利用されていたが、低濃度のGAが利用できるようになり、右表の散布条件により、貯蔵せずに出荷する早生や中生の温州ミカンでも利用が可能。



浮皮果

効果

- ◎ 1回の散布で浮皮発生程度が約半減
 - 省力的かつ安定的に浮皮の発生程度を半減し、商品化率を向上
- ◎ 散布濃度と散布時期で浮皮軽減効果と着色遅延を調節可能
 - 目的に応じて散布濃度と散布時期を調整可能。また、収穫時期をずらすことで収穫労力の分散が可能。

GAとPDJの混合散布の使用目的と散布方法の概要

使用目的	対象	散布濃度	散布時期
浮き皮を軽減して慣行の時期に収穫する	早生及び中生 温州ミカン	GA 1ppm+ PDJ 25ppm	9月上旬 (満開120日後頃)
		GA 3.3ppm+ PDJ 25ppm	8月中下旬 (満開100日後頃)
浮き皮を強く抑制して収穫時期を計画的に1~2週間遅くする	中生 温州ミカン	GA 1ppm+ PDJ50ppm	9月上旬 (満開120日後頃)
		GA 3.3ppm+ PDJ 25ppm	9月上旬 (満開120日後頃)
浮き皮を強く抑制して貯蔵する	晩生 温州ミカン	GA 3.3ppm+ PDJ 25ppm	9月上旬 (満開120日後頃)

導入の留意点

- ・ **着色が遅延する可能性がある**
散布濃度や時期の調整、マルチ栽培との併用により軽減

その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

- 価格帯
 - ・ 10a当たりの散布量を300Lとした場合2,500円~5,100円程度
- 改良・普及の状況
 - ・ 2015年時点で全国160haに導入
- 適応地域
 - ・ 温州ミカン生産地域

関連情報

・ 浮皮軽減のための技術情報（平成26年）

